令和 2 年度
環境省主催「ローカル SDGs ユース・ダイアログ」
開催レポート
（令和 3 年 3 月 7 日、13・14 日、21 日）

～ 持続可能な未来をつくる学びと交流の場 ＠岡山、滋賀 ～

● 概要

令和3年3月、地域でSDGsに取り組んでいる、またはこれから取り組む意志があるユース世代を対象に、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や脱炭素社会、循環経済、分散型社会の実現に向けて、地域の特性と強みを活かしながらサステナブルな社会づくりに貢献できるリーダーの育成を目的に、3週連続のセミナー「ローカルSDGsユース・ダイアログ」を岡山県と滋賀県でオンラインを併用し開催しました。

両県ならびに隣接府県を中心に集まった、地域における次世代を担うユース世代総勢24名（岡山会場：16名、滋賀会場：8名）が参加しました。その内、岡山会場、滋賀会場の各3名は、DAY 2のファシリテーターとしても、プログラム運営を担当しました。また、SDGs推進に取り組んできた同世代の東京のユース3名が、DAY 1およびDAY 3のファシリテーターとして、オンラインのプログラム運営を担当しました。

参加者たちは、オンラインおよび対面での交流を通じて、SDGsの達成を目指す地域の未来づくりについて理解を深め、ビジョンを共有し学び合いながら、実践のための「コミュニティづくり」を行い、それぞれの今後の活動のきっかけや最初の一歩となる「種」を探しました。

【開催日時・場所】

	日時	テーマ	場所
DAY1	3 月 7 日(日) 13:00～16:45	SDGs を学び、 仲間と出会う	オンライン(zoom) 岡山・滋賀合同
DAY2	岡山会場 3 月 13 日(土) 10:30～17:30	仲間とつながり、 未来を想像し、 やりたい種を見つける	セントラルフォレスト(Plumeria) 岡山県岡山市北区本町 6-30 第一セントラルビル 2 号館 6 階
	滋賀会場 3 月 14 日(日) 10:30～17:30		ピアザ淡海 207 会議室 滋賀県大津市におの浜 1-1-20
DAY3	3 月 21 日(日) 13:00～17:00	地域を越えて、生み出した種を育てる	オンライン(zoom) 岡山・滋賀合同

- 運営事務局：五井平和財団
- 後援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟、ESD活動支援センター、滋賀県、滋賀県教育委員会、岡山市、岡山ESD推進協議会、近畿ESDコンソーシアム、滋賀SDGs×イノベーションハブ
- 協力：NPO法人場とつながりラボhome's vi、こども国連環境会議推進協会、SDGsネットワークおかやま若者部会

DAY 1 － 3 月 7 日（日）@オンライン

初日の DAY1 は、オンライン会議システム Zoom を活用して岡山・滋賀合同で開催しました。オンラインならではのメリットを活かし、オンラインしおりを作成し、オンラインツールを活用しながら、プログラムを進行していきました。

第 1 部　旅の始まり、足場をそろえる

冒頭、事務局より、3 日間の目的やプログラムの進め方、参加者と同じ世代のファシリテーターの役割（プログラムに参加しながら進行も行うが、参加者と同じユースとして共に地域で SDGs に取り組む仲間)、また 3 日間を有意義に過ごすためのグランドルールやプログラム中で使うオンラインツールの操作方法、参加者専用の Facebook グループの活用方法などを全員で確認しました。

● 3 日間のプログラムの目的

① SDGs や地域の実践例を学ぶ。
② 地域の未来について、ユース世代で共に考えビジョンを描く。
③ 持続可能な未来に向けて、次への一歩を見つける。
④ 同じ志を持つ仲間と出会い、語り、自分の原点や仲間とつながる。
⑤ 地域でつながり、地域を越えてつながる。

その後、主催者を代表して、環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室長の三木清香氏より参加者に向けたビデオメッセージ「ユースとつくるローカル SDGs」が上映されました。

第２部　心をゆるませる、学びあう

第 2 部の冒頭では、参加者同士の関係性を深めるため、ホームグループに分かれ、アイスブレイキング「レアな共通点探し自己紹介！」を行いました。

緊張が和らいだ参加者たちはグループ内で「何をやっているのか？　なぜ参加しようと思ったのか？　最近興味持っていることは？」など、自分のことを語り合い、お互いの多様な価値観に触れると共に、安心して参加できる環境（＝場）づくりをしました。

続いて、SDGs について学ぶフェーズに移り、環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室室長補佐の田代久美氏より「ローカル SDGs を創る仲間になろう！」というテーマで、ローカル SDGs や SDGs の本質について講演がありました。田代氏は最後に、「SDGs のつながりを考えながら、2030 年までに絶対に目標を達成させるという決意で、一緒にやっていきましょう！」と力強く語りました。

次に、こども国連環境会議推進協会事務局長の井澤友郭氏より「SDGs とはなにか？ ～ 私たちの選択が未来を変える」というテーマで講演が行われました。参加者たちは、SDGs が我々の世界を変革する持続の可能な開発のための 2030 アジェンダであり、17 項目全てがリンクしていること、また、世界に比べて日本の達成度が低い項目や進捗度などについて、井澤氏の問いかけに応じながら学びを深めていきました。

また、ワークショップ「SDGs×問い ～「問い」を立てることから始めよう」では、井澤氏が、問い続けることの大切さや解像度を高めた問いづくりのポイントなどについて語り、参加者たちもそれぞれの具体的な問いづくりにチャレンジしました。

DAY1 の最後に、各参加者は「今日の学び、気づきのベスト 3」を参加者専用の Facebook グループに投稿し感想を共有し合いました。

■ DAY1 の感想、学び、気づき（抜粋）

- 学びとは掛け算であるということ。
- 問いのブラッシュアップによって思考の領域をフォーカスする、ということ。
- 17 のゴールが互いに密接に関わっているということ。
- 地域を越えた参加者との意見交換ができ、共感できる感覚が心地良かった。
- ローカル SDGs について、目指す方向性やいろいろな取り組みがあることを知れた。

DAY 2 － 3 月 13 日（土）@岡山／14 日（日）@滋賀

DAY2 では岡山と滋賀それぞれで徹底した感染症対策のもと、対面開催で行われ、各地 3 名のユースがファシリテーターとして、プログラムを進行しました。

参加者たちはお互いの多様性に触れながら、ローカル SDGs のさまざまな課題に向き合い、じっくり語り合い、仲間と共に未来ビジョンを描きました。そして、今後の自らのチャレンジの基となる MY SEED（やりたい種）を見つけ共有しました。

第３部　じっくり語り、仲間とつながる

DAY1 の感想や振り返りをした後、参加者同士の絆を深めるため、グループ対抗のアイスブレイクが行われました。速さを競い合うゲーム形式のワークを通じて、メンバー同士でたくさんコミュニケーションをし、フォローし合いながら、お互いの関係性を深めていきました。

その後、お互いの人生のストーリーやなぜ SDGs に惹かれているのか？ チャレンジしたいこと、悩み、課題を共有し、自分やお互いと深くつながる対話の時間を過ごしました。また話者のポイントをまとめ、その人の素晴らしさを付箋に書き一人一人の魅力を見える化しました。

第４部　未来のビジョンを描き、私や私たちのチャレンジを始める

お互いを深く知り合った後は過去と未来に意識を広げ、今ある価値観や思考を越えて新しい発想を生んでいく、「タイムマシン」と「シェアードビジョン（未来像の共有）」の 2 つのアクティビティを行いました。参加者全員で「10 年前には無かったが現在あること」を振り返り、また「この先の 10 年でどんな未来になっているか」を 5 つの視点（私、テクノロジー、教育分野、地域、SDGs の観点）から具体的に想像し、ポジティブな未来像を描いていきました。

未来をビジョニングした後、2030 年に向けて、より良い社会を作っていく上での良い兆し（追い風になっている出来事）と悪い兆し（後退していること）を、「グローカル」（世界・社会・地域・周り）の視点で考えながら、世界の現状を分析・把握していきました。そこから見えてきたネガティブな未来をポジティブな未来に変えていくために、地域やユースにどんなことが出来そうか、その変化の打ち手を参加者同士で対話しました。

より良い未来をつくるために、地域やユースに何ができるかを確認した後、岡山では流尾正亮氏（岡山市岡山っ子育成局こども園推進課副主査）が「岡山のサステナビリティをめぐるお話」というテーマで、滋賀では小玉恵氏（たねやグループ社会部部長）が「たねやグループの SDGs アクション」というテーマで、地域における SDGs の実践例や取り組みについて講演しました。

流尾氏の講演では「岡山の多様な活動や可能性を知り、地域の未来を考えるのが楽しみになった」、また、小玉氏の講演では「身近で問題意識に感じているところから自らの手で変えていく姿勢をたくさんの事例から学んだ」などの感想が聞かれるなど、参加者にとって、これからの生き方のヒントを得る時間となりました。

DAY1 から続いてきた一連のワークや講演を経て、それぞれが「2 日間で心に響いたこと」「未来ワークを通して、変化を生むために大事だったこと」「自分はどういうことに取り組みたいのか、勉強したいのか」など、それぞれが静かに内省し、自らの「MY SEED（やりたい種）」を見つける時間を持ちました。自分の源泉や多様性との出会い、未来像や世界・地域が重なるところに、自らの「やりたい種」を探しました。

その後、グループ内で、お互いの「種」に対する共感やアドバイスを分かちあった後、DAY 3 で行う「この指とまれ！ 分科会」に向けて、各会場から 5 つの分科会テーマの提案がありました。

■ DAY2 の感想、学び、気づき（抜粋）

- 地域での実践例にフォーカスすることが無かったので、各地域と企業の SDGs の取り組みを知ることができたことは深く考える良い機会となった。
- 10 年前の当たり前が今の当たり前ではない。未来に向かって、今何をしなければならないかを考えるきっかけになった。
- グローバル、ローカルの問題の規模に関わらず、「私たち」の主語で考えられたのが一番大きかった。これから当事者として「私たちは」の主語で考えていきたい。
- SDGs という言葉は共通語なので、他の分野との連携が出来る人間になりたい。

DAY 3 － 3 月 21 日（日）＠オンライン

DAY1 のオンライン開催、DAY2 の岡山、滋賀会場に分かれての対面開催に引き続き、再び DAY3 もオンライン開催を行いました。参加者たちは持続可能な未来に向けて、次への一歩を模索しました。

第５部　前に進む、終わりは始まり

DAY3 のメインプログラム「この指とまれ！ 分科会」は、DAY2 の岡山・滋賀の両会場での参加者たちの「MY SEED」（やりたい種）が基になって提案された 10 テーマの分科会を、前半・後半に分けて行われました。参加者たちは、各提案者からのプレゼンテーションを聞き、自らが参加を希望する分科会にエントリーし、それぞれの Zoom ルームに分かれました。

それぞれの分科会は、チェックイン、提案者による背景説明、質疑応答＆アイディア出し、という流れで進められ、今後の活動に向けての意見交換がなされました。

参加者による分科会テーマ
ユースが SDGs について学び合い、モチベーションを高められるイベントを定期的に開催する！
同じ地域に住む人々みんなで地域の環境保全に取り組みたい。
どうすれば無理せず日常でリサイクルできるか？
SDGs は、組織や専門などの「縦割り」を越えた活動をつくれるか？
ローカルとグローバルからの SDGs へアプローチ。Think globally, Act locally.
留学生と日本人の交流の場をつくりたい。
「環境問題 × ビジネス」　企業の取組み、事業として成り立たせるための工夫を業界ごとにまとめていき、比較、検討したい。
SDGs に取り組む（学生）団体の継続について考える。
「学校 × ○○」　子どもたちにもっとチャレンジと失敗と成功を！ 今学校に必要なことは何なのか新しい可能性を見出して発展・仕組みを作りたい！
社会的不利な人たちに参加できる場を作りたい。

最後に、3 グループに分かれ、各自が参加した分科会の学びや 3 日間のプログラムを通しての感想や気づき、次のステップへの抱負などを共有しました。

■ 3 日間のプログラムを通しての感想、気づき、個人の次のステップなど（抜粋）

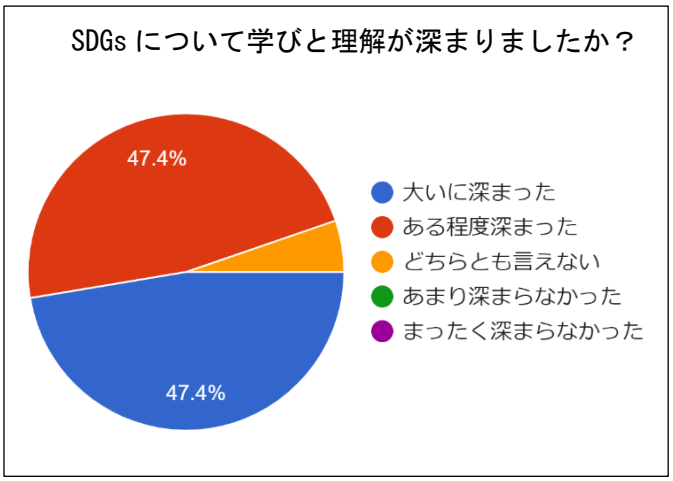
- SDGs だけでなく、自分の行動を見直す良い機会になった。
- 今後、就職活動を経て社会に出ていく中で、自分の役割をもっと詰めて考えていきたい。
- グローバルとローカルを掛け合わせた視点を現場で実践していきたい。
- 人と話し合うことで、自分では気付かなかった視点が得られた。
- 高い志を持つ学生が活躍できるような場を提供していくことが次の自分のやるべきことだと思うので、これからも皆さんと一緒に活動していきたい。
- 折角出てきたアイディアをしっかりと自分たちのものにできるように、早速、終わった瞬間ら自分たちの行動につなげていきたい。
- オンラインと対面のそれぞれにメリットがあって、ハイブリッドなのが良かった。
- SDGs の経験も知識も無く、初めは不安だったが、自分の意見が全然否定されない場だったので参加してよかった。

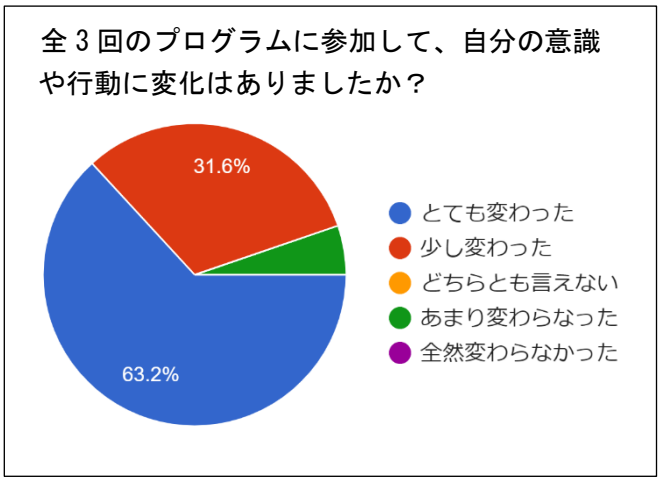
■ 講評

- プログラムを通して得た学びや体験、自己肯定感を次は「体験から学ぶこと」や「自己効力感」につないでいくことが大事です。（井澤友郭氏／こども国連環境会議推進協会事務局長）
- SDGs が達成することも大事だが、その後の世界を考えることも大事。今ここにいる一人一人の皆さんと 2030 年の先の世界がどうなっているのかを一緒に見たいし、一緒に作っていきたい。この 3 日間で「さようなら」ではなくて、ぜひ一緒の旅の仲間として、この後もやっていきましょう。（田代久美氏／環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室室長補佐）

● 参加者アンケート

参加者アンケートを実施したところ、19 名より回答が得られた。その内、「SDGs について学びと理解が深まったか？」と「参加者の意識や行動の変化」については 9 割以上の参加者が「とても変わった」「少し変わった」と回答し、参加者にとり、概ね満足度の高い学びや、自身の変化を実感する結果となった。





■ 参加者アンケートのコメント（抜粋）

- 社会問題は複雑多様化しており、一つを解決すれば済むものはないことが分かった。広い視点を持って問題をとらえていく必要があると感じた。
- SDGs について考えることがこんなにも楽しいと思っていなかったのが大きな発見である。
- 知識を得ても「行動」しなければゼロになるということを学んだ。大学生として、まずは地域での活動に積極的に取り組んでいきたいと思った。
- 社会課題はまだまだ解決に向けて動いている真っ最中で、しかも深刻度は増しているが、まず自分たちがなりたい未来を創造することが問題を解決する力になることが分かった。
- SDGs の理解を広めていくイベントを主催してみたい。
- 今回の経験を通して「何かアクションを起こしてみたい」という人に対して、自分の立場や経験、得意なことを活かして背中を押したり、サポートしたりする活動をしたい。
- 温暖化や海洋プラスチックごみに関する講演会を開催しようと思う。
- 小さなアクションを取りつつも、自分が SDGs にどのように関われるのか考え、さまざまな人々と協調し合いながらビジネスになるような取り組みをしていきたい。

● ファシリテーターの育成

全 3 回のプログラム実施の前後に、ファシリテーター9 名を対象に、NPO 法人場つながりラボ home’s vi 代表理事であり東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授の嘉村賢州氏の指導によるファシリテーション研修会を実施した。研修を通じて、一つ一つのプログラムの目的や意味を共有すると共に、ファシリテーション技術の向上が図られ、円滑なプログラム運営とコミュニティ形成の一歩へとつながった。

＜ファシリテーターの振り返り（抜粋）＞

- 参加者でありながら、ファシリテーターも出来て、特殊な経験となった。
- 丁寧なプログラム設計やレベルの高い手法を学べた。自分の仕事に活かしていきたい。

- ファシリテーターがロールモデルとなり、次なるファシリテーターを育成していきたい。
- 分科会を主催した参加者たちの成長を感じた。「点」の学びを「線」にしていきたい。

＜研修講師（嘉村賢州氏）のコメント＞

- ファシリテーターが適切な空気を作り、自分の中で筋を通して進行したことで、参加者が迷わず活発な話し合いへと広がっていった。素晴らしいファシリテーションだったと思う。

●更なる継続や発展に向けて

■ Facebook グループ、メーリングリストの活用

プログラム実施に先立って、同じ志を持つユース同士が、ローカル SDGs に関する各種情報や意見の自由な交換・交流を通じたネットワーク形成を図れるよう、参加者、ファシリテーター、運営事務局メンバー限定の Facebook グループ「ローカル SDGs ユース・ダイアログ」が開設され、終了後も活用されています。

また、Facebook グループ以外にも、全参加者やファシリテーターらが自由に情報交換を行えるよう、メーリングリストも運用されています。

■ ダイアログ後の参加者の様子

ダイアログ終了後、早速、新たな一歩を踏み出した参加者も出始めています。岡山では地域のユースネットワークと協働で、より多くのユース世代に SDGs を広めるイベントの計画がスタートしたほか、新たな国際交流イベントの構想なども始まっています。

また、全国のユース有志による SDGs や ESD に関するオンライン勉強会にも参加し、新たなつながりを作る参加者など、さまざまな形で、ユース・コミュニティの形成が始まっています。

※ 新型コロナウイルス感染症予防対策について

岡山・滋賀両県の会場における対面開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、参加者やオブザーバーをはじめ、講師、ファシリテーター、運営事務局担当者を含む全員が、検温と健康観察を行い、マスク着用、手洗い・消毒、換気等、必要な対策を徹底的に講じました。

発行：環境省
編集：公益財団法人 五井平和財団
〒102-0093　東京都千代田区平河町 1-4-5　平和第 1 ビル
※本プログラムは「令和 2 年度ローカル SDGs ユースセミナー業務」です。